

一万年のストーリーを物語る

縄文文化は、土器の特徴などにより6つの時期に区分されます。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」はその各時期の遺跡からなり、

それぞれの時期の特徴を示すほか、縄文海進や気候変動、自然環境の変化に適応し、

1万年以上にわたり続いた縄文文化の変遷を示す一連の資産として重要な役割を果たしています。

縄文時代と世界史の比較年表

年代	時代区分	日本の主なできごと	世界のできごと	北海道・北東北の縄文遺跡群	北海道・北東北の縄文土器の特徴
紀元前 約13,000年	旧石器時代	○細石器文化が日本列島に広がる	○北京原人が活躍する ○ラスコー洞窟の壁画が描かれる		
約9,000年	草創期	○土器や弓矢の使用が始まり、定住化が進み、ムラが出現する	○トルコで最古の神殿が造られる(ギョベクリ・テペ)	大平山元遺跡	無文土器(約15,000年前) 日本最古級の土器片 [大平山元遺跡]
約5,000年	早期	○気候の温暖化が進み、海水面が上昇する(縄文海進) ○貝塚が出現する	○長江下流域で水稻耕作が始まる ○メソポタミアで農耕(ライムギ)が始まる	垣ノ島遺跡(～後期)	文様が押型文、貝殻文、縄文と変遷尖底土器が多くなる 赤御堂式土器 [長七谷地貝塚]
約3,000年	前期	○円筒土器文化の成立 ○集落の数が増え、地域を代表するような拠点集落が現れる ○漆の利用技術の発達	○中国文明の始まり ○メソポタミア文明の始まり	北黄金貝塚 三内丸山遺跡(～中期) 田小屋野貝塚(～中期) 二ツ森貝塚(～中期) 入江貝塚(～後期) 是川石器時代遺跡(～晩期)	平底で多くの種類の縄文をつけた円筒下層式土器が作られる 円筒下層式土器 [三内丸山遺跡]
約2,000年	中期	○大規模な拠点集落が発達する ○ヒスイや黒曜石等の交易が盛んとなる	○インダス文明の始まり ○クフ王のピラミッド建設	大船遺跡 御所野遺跡	粘土紐で装飾された円筒上層式土器が盛んに作られる 円筒上層式土器 [御所野遺跡]
約1,000年	後期	○中期にみられた大規模な拠点集落は減少し、集落の拡散化、分散化が進む ○環状列石が出現する	○ハンムラビ法典ができる ○殷王朝の成立 ○ツタンカーメン王即位	キウス周堤墓群 高砂貝塚(～晩期) 小牧野遺跡 大湯環状列石 伊勢堂岱遺跡	土器の厚さが薄くなり線と縄文による模様が見られるようになる 入江式土器 [入江貝塚]
約300年	晩期	○亀ヶ岡文化が栄える ○遮光器土偶や土面など祭祀の道具が多く作られ、装身具類も多様となる ○北部九州に稲作が伝来する	○春秋時代 ○戦国時代	大森勝山遺跡 亀ヶ岡石器時代遺跡	精緻に飾られた亀ヶ岡式土器が作られる 亀ヶ岡式土器 [亀ヶ岡石器時代遺跡] 青森県立郷土館蔵 風韻堂コレクション
	弥生時代	○吉野ヶ里遺跡が栄える	○秦の中国統一 ○コロッセウム建設		